

## 【 1年を振り返って 】

( 会長 原田 賢治 記 )

“光陰矢の如し”と言いますが年月の過ぎるのは早いもので、今年もあと1週間となりました。師走に入り、新しい年を迎える準備等で何かと気忙しい日々と思います。

この一年皆様には、会の推進に多大なご協力を戴きました。人の“力”と“和”の素晴らしさを感じております。ありがとうございました。

4月の総会で役員の改選と事務局の体制の確立、指示、伝達の徹底を計る目的で4名体制となりました。親子自然観察隊も同じく組織の確立・指示の徹底を計る目的で役員の配置がなされております。お互い共同精神の基で活動に邁進しましょう。

維持活動について振り返ってみると、

- 環境整美を目的とした草刈り作業の推進
- 老朽化した設備の補修作業
- エコアップでは、雑草、外来種の駆除・絶滅危惧書の育成作業
- 稲作では無農薬・有機肥料栽培を主とし、子ども達と手植え、手刈の作業とする

親子自然観察隊の学習は、毎月の学習テーマに基づいて講師の指導の元で昆虫や魚、植物、鳥等の生態について観察し学習している。正に自然環境教育の場となっています。

収穫祭は、前日までの雨・風の天気から一変して、陽射しの出た快晴の冬日となりました。

久保田宇部市長さまをはじめ、多数の御来賓の方々のご参加をいただき盛大に執り行うことが出来ました。参加された大人・子どもたちの楽しい餅つきであったと思います。

市長さんのお話の中で、現在は皆さんが良く管理されているが、次の世代へのバトンタッチが出来るよう考えてほしい。との事でした。会員全員で勧誘を心がけましょう。

これからも「里山ビオトープ二俣瀬」の推進に当たり皆様方の更なるご協力、ご指導をお願いいたします。皆様お揃いで良い年をお迎えください。

## 1. 活動報告 ( 事務局 記)

—12月11日(金) 13時より、二俣瀬ふれあいセンターにて、収穫祭の準備として、以下の作業を実施しました。

イ、洗米(2表半=30kgx5袋=150kg) 永山酒造 に依頼しての持ち込み洗米

ロ、テント3セット張り もみ台6セット

ハ、会議室にて一時乾燥台をセット

ニ、バーナ、ハガマ、炊き釜、餅つき器、その他灯油準備

ホ、ダイガラ及び石臼セット

参加した会員は16名(宇部市役所の会員2名参加)でした。

—12月12日(土) 開会式の前に地元会員を中心に朝早くから準備して頂き、開会式の後すぐに餅つきを始めることが出来ました。宇部市やJAなどの来賓者の挨拶の後に餅つきを始めて、子供たちを中心にお餅を丸めてもらいました。子供たちには、台唐での餅

つきも体験してもらい、天気にも恵まれ楽しい収穫祭になりました。閉会式の後で、各人にお餅を1パックずつ手渡しました。宇部市長が挨拶に来られ皆で写真も撮り、親子自然観察隊の解散式を行って、片づけをしました。今日の参加者は、会員29名、地元婦人3名、宇部環境コミュニティー浮田理事長、JA重枝二俣瀬支店長、宇部市民環境部秋田次長、上田市民センター長、野村公民館長、厚東中（教頭、先生1名、生徒13名）、親子自然観察隊（子ども7名、親7名）、二俣瀬子ども会（子ども21名、親11名）、山大学生1名の99名で、その後に市長と秘書が参加されました。

—12月14日（月）山大工学部にて事務局会議を行いました。

1. 予算の進捗状況を確認しました。
2. 観察隊と稲作体験は実施するとして平成28年度の活動計画案を作成しました。  
計画案の説明を26日に行い、1月9日の初集会は現地での作業に変更します。
3. その他の事項（厚東川の協議会の解散、傷害保険の扱いなど）協議しました。  
参加者は、関根事務局長、原田マ、前田、原谷、管の5名でした。

—12月26日（土）18名の参加者で平成27年の年末懇親会をしました。

最初に来年度の活動計画について協議し、異論はなく総会にて協議決定となります。  
焼肉・おむすび・豚汁と酒・ビールなどの飲料にて、賑やかに会談しながら行いました。  
帰りには当つくる会で栽培された、椎茸をたくさん各自のお土産として頂きました。  
地元の方には前日に準備もしてもらいました。



猪肉の差し入れもありました

## 2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

◎行 事

—1月9日（土）維持活動・エコアップ

—1月23日（土）維持活動・エコアップ

## 3. 来訪者の声

今月はありません。

## 4. 会員の声【 朝霧の厚東川水面をみて 】（原田満洲夫 記）

二俣瀬の中心を流れる厚東川（過っては二俣瀬川と呼称した時代もあったようです）は、厚東川ダムが出来るまでは肥沃な土や砂利が流れてきて木田平野・瓜生野平野や中島を形成した。

ダムが昭和25年に竣工して間もなくはダムがなかった以前の恩恵を受け我々の子供のころは、獲れた手長エビ・カニ・ナマズ・ウナギ・カマツカ・マ鮎等は子ども大人も、遊びの中で人間の狩猟本能をくすぐり、生活の糧ともなっていた。

とみに最近地球温暖化によると云われている、異常気象とダム水位管理のミスと思われる濠水がちよくちよく発生し川土手を何度となくオーバフローして農業や生活に被害をもたらした。改善する為 どんな原因であろうとも濠水が起こらないように、中島を取り除いてスムーズに水が流れるように改善された。

然し、更なる異常気象による集中濠水が起こり解決策で躍起になっている。その都度予算が許す範囲で、またダム水位管理のマニュアルを改正したり、川の流れを改善する為、川底の浚渫・川に生えている木々の切り取りが行われている。

ここで考えなくてはならないことが有る。我々が子供のころ先に述べたように、夢があった狩猟本能をくすぐった魚とりには 魚が住めて子孫を増やす場所が要る。現在の中島跡を見るとそんな場所は全く見当たらない。支流の甲山川・山手川。善和川・須賀河内川からの流れ込む少ない魚もカワウやサギ類の餌食になっている。

隠れる場所が治水の工事でなくなっているのである。今朝も薄霧の中島跡水面にカモやサギが餌の魚が来るのを待っている。さらには川鵜は十数羽潜って魚を探している。

“もう お前たちが※喰っていくだけの魚はいないよ” と言いたくなる。

“背を曲げて 何を狙うか 冬のサギ”

※喰っていくだけ=生きていけるだけ

## 5. 親子自然観察隊 「 収穫祭・解隊式 」( 管 哲郎 記 )

・「**収穫祭**」：9時より収穫祭が始まりました。今年は好天に恵まれ、気温も高く絶好のイベント日和になり、動くとき汗をかくほどでした。市の関係者をはじめ、JA関係者、学校関係、地区子供会の親子、山口大学学生など100名近いゲストを迎え、今年もにぎやかな収穫祭となりました。

収穫祭の目玉イベントである“ダイガラ”による餅つきも隊員と子供会の子たち全員が経験しました。高学年の児童はさすがにうまく足を使いましたが、低学年生では力不足でダイガラが重くうまく心棒を跳ね上げられず少々荷が重かったようでした。子供たちもすっかりお餅づくりに慣れ、手際よく丸めてゆき、もち米を蒸すのが間に合わないくらいでした。そのためいつもなら親御さんやゲストの方々にもダイガラによる餅つきを経験していただくのですが、モチを丸めるほうが間に合わずダイガラによるお餅つきは子供たちだけで終わりとなりました。杵を使ったモチつきはどこでも見られますが、“ダイガラ”を使った餅つきは大変珍しく、素晴らしい体験となったことでしょう。

久保田宇部市長もご多忙の中わざわざ駆けつけていただきましたが、来られた時刻が遅く収穫祭を終えた後になり、今年はお餅づくりなどを体験できませんでした。市長よりのお言葉をいただいた後、会員と観察隊全員で市長を囲み記念撮影を行いました。

・「**解隊式**」：収穫祭を終えたのち引き続き“親子自然観察隊”の解隊式を行いました。今年は出席隊員の出欠が極端で、出席率の良い隊員と2～3回しかこられなかった隊員に分かれました。今日の収穫祭にも隊員4名、ジュニア、シニア3名の、合わせて7名だけの出席となりました。少々さみしい解隊式でしたが、隊員はみんな元気で収穫祭を楽しんでくれましたし、欠席された隊員も、来られなくて大変残念であったと伝言があり、やむを得ないと思いました。なお、本日の内に来年の入隊を希望する親子が何組もあり、登録を済ませました。

好天の中、収穫祭、解隊式ともに無事終了し、一年の行事が無事終了いたしました。今年も隊長である私(管)が急な病に倒れたまま、十分な働きができませんでした。皆様の温かい応援や援助で無事に乗り切ることができました、ありがとうございました。

また、毎月のイベントに多大なご協力をくださっておられる会員の皆様には、この場をお借りし御礼申し上げます。

来年(2016年)の1月中旬には「生物多様性市民会議」が市の環境課で開催されます。会場は「アクトビレッジ小野」を予定しており一般市民など100名ほどの出席があるようで、4団体がそれぞれ活動ぶりを発表しますが、ビオトープの「親子自然観察隊」も活動の様子を発表することになっています。

「親子自然観察隊」は小さな活動団体ですが、結構注目されているようです。細々とではあります。体力と気力が続く限り、お役にたてるようもう少し頑張っただけでいいと思っています。これからみなさんと皆さんのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



餅を丸めます



台唐で餅つき



市長と記念写真



解隊式

### 親子自然観察隊の親子の感想

★永富 花音

台唐でつくのが楽しかったです。踏むのは力がいって少し大変でした。

★永富 利津子 (母)

私も台唐を踏んでみたかったです。螞

貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

★川口 颯太 (母)

台唐を使っての餅つき、貴重な体験をさせていただきどうもありがとうございました。

颯太は、餅が苦手な普段は食べませんが、翌朝、観察隊でお土産にいただいたあん餅を残さず食べていました。

★川口 (父)

1年を通じて親子で様々な体験をさせていただきました。颯太は、夏にあった川探検で魚に興味を持ち図鑑で調べるようになり、今では家族で一番の魚博士になりました。

★川口 颯太

もちにあんこをつつむのがたのしかったです。

★下川 拓実 (今月の感想)

だいがらでついたお餅は米粒が残っていて、機械でついたお餅の方が好きでした。

★下川航平（今月の感想）

だいがらで餅つくの時、足が重かったけど、楽しかったです。お餅を丸めるのが去年よりきれいにできました。

★下川（母）（今月の感想）

子どもがだいがらでついたお餅をいまひとつと感じたのには驚きました。餅つき機のお餅に慣れているからでしょう。私は、だいがらでついたお餅は弾力が違います、もちもちでおいしかったです。

★下川拓実（一年の感想）

昔の人の暮らしがよくわかりました。とにかく楽しかった！ 中学生になっても参加したいです。

★下川航平（一年の感想）

沢登りで魚を探すのが一番楽しかったです。

★下川（母）（一年の感想）

今年もお世話になりました。子ども一緒に戸外へ出掛けることも少なくなってしまう、観察隊で過ごす時間は貴重です。日常ではできないことを体験させてもらって感謝しています。ありがとうございます。来年もよろしく願います。

★戸成晃大

ぼくは活動に1年間で半分ぐらいしか参加出来ませんが、親子観察隊がすきです。特にお餅つきが大好きです。今年は萩でのサッカー試合と重なってしまって、参加することが出来ずとても残念でした。しかし、試合が終わって帰ったら、たくさんのお菓子とお餅があつてうれしかったです。おいしいね、おいしいねとあつという間に食べてしまいました。来年は今年よりも参加出来るようにしたいと思っています。今年一年ありがとうございました。来年もよろしく願います。

★戸成典枝

いつもお世話になりありがとうございます。今年最後の親子観察隊に子供の試合と重なってしまい残念に思っていたのですが、子供が「試合よりもお餅つきに行つて、おいしいお餅をもらつてきて。お餅が食べたい。」と言つた事と、ずっとお世話になっているので、何かお手伝いが出来ればと思ひ、子供がいないのに私だけ参加させて頂きました。いつも子供と楽しく参加するだけですが、会員の方々には準備から活動にいたるまで本当にお世話なつてありがとうございます。晃大にとって活動もとても良いことですが、晃大にはおじいちゃんという存在がないので、里山に来てみなさんに名前を呼んでもらつたり、怒つてもらつたり温かく接してもらえる事がとても有難く、またのびのびと過ごすことができる事がとても嬉しいです。来年は今年よりも参加出来るようにしたいと思っていますので、よろしく願います。今年一年ありがとうございました。



6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(36) ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki*

サナエトンボ科 *Gomphidae* Banks

流水系のトンボです。成虫は6月～10月ごろまで見られますが、名前の通り平地ではあまりおめにかかれませぬ。河川の中流や上流の川岸以外では、林道や登山道などでよく見かけます。本州、四国、九州地方に生息しますが、四国、九州、中国地方ではあまり多くなく限定的なようです。

県内では厚狭川、厚東川、佐々並川、錦川などの比較的大きい河川の中流～上流部で生息し、羽化後は華山、男岳、長野山などの標高の高い山に登り、成長すると生まれた川の中流部や上流部の川岸に戻りメスを待ちます。

羽化の時期は5月から6月早々の梅雨に入るまでに行われるようで、時刻は朝、羽化殻は1シーズンに数個程度回収しており、早朝より川に入り上陸してくるヤゴを探しますが、いまだに羽化するシーンをみることはできません。1日に羽化する個体が少ないからだと思ひます。成虫は9月ごろ小野湖の上流の大田川にも10年前までは川岸の両岸で多くみられたのですが、現在は全く見られなくなりました。原因はよくわかりませぬ。



長野山産 ミヤマサナエ ♂



男山産 ミヤマサナエ ♀



大田川産 ミヤマサナエ♂



華山産 ミヤマサナエ ♂

## 7. 会よりの連絡事項

1. 事務局会議は今後は運営会議とし、役員・事務局員・運営に意見のある人の参加で行います。場所は山大工学部で行いますので、日程は直前に決まり連絡網でお知らせします。  
5月・9月・12月・3月を予定しています。
2. 来年度の活動計画は、懇親会にて協議され決まりましたが、最終的には総会にて決定されます。活動は原則雨天でも行いますので、東屋に集合時にその日の作業が決められます。
3. 会員の三宅 弘さんが今年の春に死去されましたので、お知らせします。
4. 27年度活動計画でシイタケ栽培の活動が挙げられています。そのために年末からいろいろの作業が入ってきます。2～3名の作業ですが、おいしい椎茸をつくるためには最低一年毎のそれなりの下記活動が必要です。  
－12月29日（火）椎茸原木切り出し（小学校グラウンド東側山）地域会員の非常作業  
2月末 ホダ木の1m寸ぎり及びホダ木の養生作業  
3月には菌打ち作業と菌打ち後の井桁組養生作業が有ります

## 8. 編集後記

今年は師走となっても暖かい日が続いており、冬らしく日がたまにしかありません。地球温暖化のせいでしょうか。おりしも地球温暖化防止を目的とした、パリ協定（COP21）が採択されました。目標が達成出来れば、良いのですが。

という訳で、私も考えました。ビオトープへの交通手段をエコな方法にできないかと。一般的には、公共交通機関を使う方法となりますが、十年前、私はこれを試したことがあります。しかし不便なため、半年で断念しました。再度挑戦しようと思い、時刻表を調べましたが、より深刻（不便）な状況に陥っています。このような状況での公共交通機関の利用は、相当な根気が必要です。

五十年前、私は木田にバスで来たことがあります。バスはビオトープ駐車場横の道（旧道）を走り、停留所は永山酒造の前にはありました。市営バスの他に防長交通も走っており、便数も今の数倍あったのではないかと思います。現在のような状況になったのは、人口の減少も一因ではあると思いますが、最も大きな原因は利便性でしょう。便利な車に人が流れてしまったのです。この流れは、防ぎようが無いと思います。

私のエコに対する姿勢も、利便性には勝てないようです。結局は、車を省エネのものに変えるしか方法が見つからないのです。理想を言えば、今よりも使い勝手の良い電気自動車があれば良いのですが。あるいは、頑張って自転車で通うか。しかし、私は自転車で公道を走ったことはありません。

（ 前田 歳朗 記 ）